

### 道立余別診療所の廃止問題

(経過報告)



平成18年第4回臨時町議会が11月16日招集され、平成17年度各会計決算の認定に係る議案8件が審議され同日24日閉会しました。そのあらましについてお知らせします。

#### 町長、議長が道へ 存続要請

このことについては、6月の第2回定例町議会において議決された道立余別診療所の存続を求める意見書の北海道知事及び北海道道議会議長への提出並びに、その後開催された道による地域住民説明会の開催、またこれらと前後しての町及び地域住民による道への陳情など、懸命の存続運動等が続けてきた経緯にあります。

一方、本件が、11月から本格化する道の平成19年度予算編成

作業に極めて密接に関連しているとの情報を踏まえて、10月18日、岩本町議会議長と道庁を訪れ、地域の実情と町民の切実な願いを訴え、重ねて存続への特段の配慮を強く要請してきました。

#### 「道」より 長年の経営難に理解を

席上、道側から所管の石川保健福祉部長、同松尾次長、河合保健医療局長、杉本保健医療局医療政策課長などが応対され、



積丹町における町をあげての懸命の存続運動に敬意を表しながらも、「約20年が経過した北海道地域保健医療計画に基づく行政改革の推進の中で、経営の採算性が特に乏しい状況が長年続く道立余別診療所ではあったが、積丹町の厳しい地域事情を考慮し、施設の維持運営に最善の努力をしてきたところである。しかし、今日の逼迫した道の財政事情の下で、今後も市町村が担う一次医療の補完機能を、道が引き続きその主体的役割を担うべく、残された道内各地の道立診療所を引き続き存続することとは、極めて困難であることに

このような経過から見ても、今後、「道が平成19年度も引き続き道立余別診療所の経営を継続する方向へ方針転換を図る可能性は、極めて厳しい状況にある。」と申し上げざるを得ないと受けとめています。

#### 存続への道の方針転換 極めて厳しく

「道」より長年の経営難に理解を

また、道においては、道内の中核道立病院の経営が診療報酬の引き下げ等、国の医療制度改革の影響からその経営環境が一